

南伊豆町総合計画等審議会委員の評価及び意見（地域再生計画事業）

事業番号	事業効果	コメント記載欄
1	<p>南伊豆町まち・ひと・しごと創生推進計画</p> <p>高い</p> <p><input type="checkbox"/> A (14%)</p> <p><input type="checkbox"/> B (57%)</p> <p>⇕</p> <p><input type="checkbox"/> C (29%)</p> <p>低い</p> <p><input type="checkbox"/> D</p> <p><input type="checkbox"/> E</p>	<p>【○】KPIのうちいくつかは目標値を越えた実績を達成する見込みあり、目標感を持った取組が奏功したことについて評価</p> <p>【?】ただし、その目標値自体がどのような意味・意図をもって設定したのかは資料からは読み取れず、設定目標自体の妥当性や、今後の同等の計画を策定する際のロジックの整理は必要ではないか</p> <p>【△】KPIのうち「将来、町に住みたいと思う子どもの割合(中学3年)」や「お達者度(意味は?)」など、地域住民にとってのまちの良さに関する目標感はどうだったか。目標の多くが「転入増」を目標としており、まちひとしごと創生推進計画故にやむなしかもしれないが、この計画を通じて町民や町内事業者にとっての「よいこと」も喚起していく必要があるのではないか。</p> <p>【△】「短期お試し移住の参加者数」「観光交流客数」「宿泊客数」など、町の外の方の評価は厳しく、コロナ禍でかつ全国各地で同等の活動が行われている中、特長ある尖った取組は必要ではないか</p> <p>【?】企業版ふるさと納税の実績は重要と思われるも、その定性的評価(関わってもらってどうだったか、どんな成果が生まれたか)を行い、今後の新たな企業との戦略的な連携に活かすべき</p> <p>●子どもたちが大きくなるにしたがって、町離れが進んでいく原因は、現役を離れていく周囲、つまり活力のない現状を見るにつけ、魅力が見つからない。高齢者が活力をもって山・里・川・海を積極的に守っていかないと滅びてしまう危機と感じます。事業目的達成度はそこそこだと思いますが、残念です。</p> <p>●将来町に住みたいと思う子どもの割合、中学3年7%の数字にはびっくりすると同時にがっかりしたのが正直な気持ちです</p> <p>●中学3年生時の「将来町に住みたいと思う子どもの割合」を向上できるような計画を望みます</p> <p>●R2～R6実績中、ファンクラブ登録者、ふるさと納税応援者等目標を大きく上回る一方、女性有配偶者率は低い。分析、テコ入れする必要がある。(15～49歳となっているが、20歳～など、実態を踏まえて見直す方が良い。</p>
事業番号	事業効果	コメント記載欄
2	<p>「子育てだけじゃない」子育て支援拠点事</p> <p>高い</p> <p><input type="checkbox"/> A (100%)</p> <p><input type="checkbox"/> B</p> <p>⇕</p> <p><input type="checkbox"/> C</p> <p><input type="checkbox"/> D</p> <p>低い</p> <p><input type="checkbox"/> E</p>	<p>【○】KPIのうちいくつかは目標値を越えた実績を達成する見込みあり、目標感を持った取組が奏功したことについて評価</p> <p>【?】ただし、その目標値自体がどのような意味・意図をもって設定したのかは資料からは読み取れず、設定目標自体の妥当性や、今後の同等の計画を策定する際のロジックの整理は必要ではないか</p> <p>【?】「子育てだけじゃない」の真意については気になります。</p> <p>【今後】利用者である親世代にとってのニーズや想いを汲み取った今後の計画に期待します。</p> <p>【今後】支援整備と支援の運営費について不明ではありますが、その費用対効果をより高める為の次の施策について如何でしょうか</p> <p>●支援センターの稼働が大きいと感じます。若い世代は子どもと離れた場所でも出かけられるので、広い当地、施設づくりを増やして、そこに仕事も発生しますので、ひとつずつ増やしてください</p> <p>●親だけでなく、町全体で子育ての話、町まるごと学校の話が興味深いです</p>

事業番号	事業効果	コメント記載欄
3 多様なライフスタイル創生モデル事業	<input type="checkbox"/> A (57%) 高い <input type="checkbox"/> B (29%) <input checked="" type="checkbox"/> C (14%) <input type="checkbox"/> D 低い <input type="checkbox"/> E	<p>【○】移住者数、デジタル人材の数、空き家活用数、共同作業に対する参加者数ともに、南伊豆町の立地の厳しさに対して顕著な効果を挙げていると考えられます。</p> <p>【今後】この参加者たちが地域への貢献に継続的に関わられることや、この方々が核となって新たな取組が起こることを期待します。特に昨今「二拠点居住」に関する注目が高まりつつあり、そういった層の取り込みを通じてデジタル化の方策も併せて検討いただけたらと思います。</p> <p>●いよいよこの部門が地域活かしのポイントになると思います。分枝に移住者、農業体験のない社会人や高齢者が通学できる教育体制を作り、田方農高のの向こうを張る高校としていく、できれば県立農業大学校の一部学部誘致を実行に移せる町であってほしい。また、東京大学樹芸研究所を民との連携、行政との連携をして事業計画を立てたいですね</p> <p>●R4～R6目標 移住者数、空き家活用数について、より大きな目標設定をした方がよかった（空き家軒数は今どれくらいか？）</p>